

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201054		
法人名	株式会社フジミヤ		
事業所名	グループホーム やすら木の家		
所在地	松本市島立2225-1		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年3月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070201054&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方とのコミュニケーションを大切にしています。介助や支援が強制にならないよう、話しをすることで、意思を確認し、利用者さんのペースで過ごせるよう努力しています。
買い物や外出に積極的に出かけ、利用者さんの生活が、施設のみにとどまらないようにしています。
また、食事も「楽しく、おいしく」なるように、メニューに工夫をしています。食べる能力に応じた食事形態も利用者個別に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームからは銀嶺の北アルプスの山並が望め近隣には工場や高等学校もあり、その先には住宅や田園風景が広がり生活感や季節感が味わえる地に「グループホームやすら木の家」が設置されている。運営者は高齢社会の中で増え続ける認知症の方々へ介護サービスの選択肢として、専門性を携えた受け皿の必要性を早期から認識され、行政や地域住民に働きかけ開設されている。適切な運営体制の下、管理者は職員と一体になつて経験と専門性を活かし又日々研鑽を重ねながら入居者一人ひとりに向かい合い、地域密着型サービス(入居者が住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続けること)の質の確保と向上に努められている。なお日々の寄り添いのケアの中で状態変化を早期に見極めご家族と話し合いを重ねると共に、看取りに当り意思確認書を作成し、医師、職員、関係者が連携を図り安心して納得が得られるよう支援されている。入居者は日々明るく、穏やかに過されており、ご家族の安心と安全につながっている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(あすなる)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(けやき)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>運営規定にある理念を、利用者の方と共に、分かりやすくしたものを考え、玄関やロビーに掲示しています。</p>	<p>グループホームが運営やケアサービスを提供する上で、拠りどころとしている大切なこと、常に立ち戻る根本的な考え方を組み入れた理念を職員や入居者に分かりやすく具体化し、玄関やロビーに掲示されている。なおカンファレンス時に職員間で理念を共有しケアサービスの向上に努められている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>敬老会に参加したり、近隣保育園の園児との交流、近所の住民の方から野菜やタオル等の差し入れをいただいたりしています。また「子どもを守る安心の家」にも登録しました。</p>	<p>入居者が散歩や買い物への外出時に近隣の方々との挨拶や地域の保育園児、小・中・高校生との交流が図られている。なお地域行事(敬老会・運動会等)への参加やご近所からの野菜や品物等の差し入れもあり、地域の方々とのふれ合いを持たれている。</p>	<p>今後更にホーム行事に地域の方々を招き入居者とのふれ合いを頂くと共に、ホームへのご理解を得られるような取り組みに期待する。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域包括支援センターを通じ、近くの町会で講演会を行いました。また代表者は、キャラバン・メイトの講習にも参加し、認知症の方への理解を深めるためのお手伝いをしていきたいと考えています。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回の開催を遵守できています。利用者家族の声や、他事業所の方々の意見等を取り入れた運営に努めています。職員の名前と写真を玄関に掲示しているのも、家族の意見から実施しました。</p>	<p>地域密着型サービス事業所の活動を明示し、出席者より助言を頂きながら地域に開かれたサービスとしての質の確保を図る取り組みに努められている。(ホーム行事に在宅介護者に参加して頂き、息抜きの場合とされたい旨を伺った)</p>	<p>会議に入居者にも参加して頂き希望や思いの表出場面となるよう配慮が望まれる。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>様々な場面で、連絡を取り合っています。また、更新申請の際の現地調査をきっかけに意見交換ができ、指導や相談に応じてもらっています。介護保険相談員を通じ、地域との関わりや防災について担当者と話し合っています。</p>	<p>認定更新時等に担当職員へ、入居者の日常の暮らしぶりや身体状況等についての情報交換をされている。なおそのおりに指導や相談にのって頂いている。また介護保険相談員が来訪時、ホームの取り組みについての相談や協力が得られている。</p>	<p>地域包括支援センターと連携を図り、ホームの専門性を活かし、認知症予防教室の実施に向けた取り組みに期待する。</p>

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないのは当然ですが、全職員が正しく理解するようにカンファレンス等で議題に取り上げるようにしています。	身体拘束による入居者に与える身体的、精神的苦痛を全職員が理解しており、日常的に見守りや、寄り添いのケアにより入居者が安全で自由な暮らしが出来るよう支援がされている。訪問時、ホーム玄関に施錠はされていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員から利用者への虐待はありませんが、ご夫婦の利用者さんの間で、暴言等が見られることがあります。大きな問題になる前に制止していますが、利用者家族と連絡を密にしながら、防止に努めています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度への理解を深めるために研修に参加しています。 また、家族から相談を受けたときに、後見人について等の説明を行っています		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、必ず本人とその家族と面談を行い説明します。また解約時には、事前に時間をかけて話し合いの場を設け、理解していただいています。 また、見学時にもしっかりと説明を行うように努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情相談窓口の説明を行っています。運営推進会議を通じての意見等も反映させるようにしています。 また、毎月の様子を報告する書類にも家族の意見を記入する項目を設け、意見を吸い上げるようにしています。	日々の寄り添いケアの中より入居者の意見や要望の把握に努めると共に、ご家族ホーム訪問時(意見箱や苦情相談窓口の利用、運営推進会議出席時等)に意見を頂きホームの運営に反映されている。なお毎月のホーム便りを活用して、ご家族の意見を汲み上げる努力をされている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営母体の役員と代表者、職員で個別面談の機会を設けて、意見や要望を聞き取っています。 また、不定期で職員会議を開催し、意見交換をしています。	職員会議の折の意見交換や、運営母体の役員・代表者と職員面談が行われ、職員との話しあいの下他の部署へ職場替えがあったことを伺った。	

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の休み希望にできる限り応じた勤務シフトを作成しています。 代表者は、毎月5～6日ほど事業所に来て、職員と意見交換をしています。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部への研修は、できる限り職務として参加させています。また研修費用の援助も行っています。 研修報告をカンファレンスや運営推進会議で行い、情報を共有するようにしています。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に参加するよう努めています。また、研修で他施設へ出かける機会も作っています。 運営推進会議に介護事業者に参加していただき、情報交換しています。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>契約・利用の前に必ず本人と家族に、現在生活している場所での面談を行っています。 一週間程度の体験入居をしていただき、本人の気持を確認しています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込みの段階で、困っていることや家族の状況を記入してもらっています。 サービス開始前に、家族の現状や要望を聞く面談を行い、不安や希望に対し、私たちがお手伝いできることを詳しく説明しています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>体験入居が決まった方には、サービス開始前でもイベントにお誘いしたりしています。 また、そのときに、職員の名前と写真の一覧をお渡しして、不安の軽減に努めています。</p>		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯等、協働できる場面では、できるだけ一緒に行ってもらっています。時には、職員が利用者の方に悩みを聞いてもらうこともあります。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	代表者と利用者家族とで面談を行いました。入居当時との違いや家族の状況等を改めて確認しました。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡先の分かるご友人には手紙を書いたり、電話をかけるための支援を行っています。入居前によく出かけていたスーパーに買い物に行くなどしています。	入居者の兄弟や退職職員へ便りを書かれたり、電話をかけるための支援が行われている。なお昔馴染みのスーパーへ出かけ買い物を楽しんでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役になりながら、仲間同士で会話が成立するようサポートしています。お茶やお食事のときも、共通の話題で会話が盛り上がるようにしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は、今までの生活状況等を迅速に伝えるように努めています。また、忙しい家族に代わって、事業者間で連携を密にし、ダメージが少ないように支援しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から思いを把握するよう努めています。発語が難しい方は、表情や仕草といった、普段関わっていないと分からない要素から意図をくみ取れるようにしています。	職員は入居者の生活歴やライフスタイル、日々の関わりの中より一人ひとりの個性や価値観等を把握されており、言葉掛けに留意されると共に入居者の表情や仕草より察知して、思いや希望、意向等の把握に努められている。	

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの情報を基本に据え、必要があればその都度、家族やケアマネージャー等に確認を行っています。 また、日常会話の中で新しい発見があった場合も、すぐに家族等に確認し、情報を把握しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りをしています。その日の体調や精神状態等、関わる職員全員が情報を共有できるようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活記録である「今日の私」に各々の職員が個別に記録したものを参考に、ケアプランを作成しています。家族の手元に文書としてお渡しし、ケアプランの承認を得ています。	毎日の生活記録(今日の私)に記載された個別記録や毎月ご家族への便りでのやり取りの中から得られた要望を組み入れ、職員が計画作成を行い、各ユニット毎で検討し現状に即した介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「今日の私」にそれぞれの職員の言葉で記録をつけています。その情報をもとにカンファレンスで意見交換しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時や家族との外出時に車椅子や車椅子対応車両を貸し出ししたりしています。利用者家族と一緒に外出しやすい環境作りに努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある交番や保育園、高校と情報交換したり行き来があります。 保育園からは運動会に招待されました。また高校からはボランティアを受け入れたり、先生からの紹介で卒業生が就職しています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、身体的・精神的負担なく医療が受けられるよう支援しています。また、協力医による定期往診も行われています。	入居者やご家族の希望しているかかりつけ医となっている。なお受診に際しては入居者やご家族の要望にそった支援がされている。また月2回協力医による定期的な往診もあり普段の様子等情報伝達が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的・精神的に異変が見られる場合は、すぐに看護職員に連絡し、通院や往診といった適切な医療がすぐに受けられるよう支援しています。また看護師が不在時にも対応に困らないようマニュアルを作成しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けてのカンファレンスに参加して、退院後の生活が速やかに送れるよう努めています。また医療連携相談室やかかりつけ医とも情報交換したり、できるだけお見舞いに訪れるようにしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針を設け、対象になった時は、医師・家族・ホームと話し合いを行っています。その内容は確認書という形で、取り交わしています。	重度化に関する指針が設けられており、入居者がその状態に遭遇した折には、入居者、ご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり安心して最期を迎えられるよう支援がされている。なお看取りにあたりご家族との意思確認書を取り交わされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、マニュアルを作成しています。緊急時に慌ててしまわないよう、定期的に具体例を挙げて、確認を行うようにしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。1回は消防署立会いの下、消火器の使い方等を訓練しています。また、警備会社とも連携しており、災害時に一人で避難できない方の情報を共有しています。	年2回の避難訓練が行われている。マニュアルを作成し、消防署の協力を得て消火器の使い方等の訓練が行われている。なお警備会社とも連携を図り災害時に備えている。	入居者には高齢化に伴い重度化傾向にあり、車椅子対応の方々が増加しており、昼夜を問わず職員のみでの誘導には限界が見られる。日頃より地域住民よりの協力体制が得られるよう話し合い、具体的な支援体制を築かれるよう期待する。

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「今日の私」などは本人の目につかないところに保管しています。バルーンカテーテル留置の方には、職員手作りのバックを使用しています。 言葉遣いや性差等も考慮して介助しています。	職員は入居者の身体状況や精神状態を日頃の関わりの中より把握されており、一人ひとりに合った言葉掛けや状況判断をして常に入居者の立場に配慮された支援に努められている。なお個人情報に関する書類は事務室にて管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めてしまうのではなく、本人の思いを聞きだすような声掛けをしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れは決まっていますが、本人の体調や意思を尊重した生活をしていただいています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に出かけたりしています。衣服は一緒に買い物に出かけ、本人に選んでいただいています。 お誕生日には化粧を施したり、女性にはかわいいヘアピンをつけたりしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考えたり、買い物に行き、希望を伺ったりしています。準備や片づけもできる範囲で無理することなく行っていただいています。 また、職員・利用者とともに同じ食卓を囲み、楽しい食事ができるよう支援しています。	献立を入居者と一緒に考え食材を買いに行かれています。職員の支援を得ながら調理を手伝い職員と共にテーブルを囲み味の評価(美味しかった)をしながら満足感を表現されていた。なお身体状況に即した食事形体に配慮されている。食後には見守りの中片付けが行われていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかですが、食事摂取量と水分摂取量を記載しています。バイタルチェックと併せて、健康管理を行っています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思や能力に応じて、声をかけたり、口腔ケアの介助を行っています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録を参考にしたり、本人の動きを見ながら声掛けをしています。本人の希望があれば、ポータブルトイレも使用し、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。	個別記録書の記載より入居者の排泄習慣を把握し、歩行介助や車椅子介助による排泄の自立支援が行われている。入居者の希望によりポータブル使用による支援も行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心にした食事作りを心がけている。散歩や運動を取り入れ、できるだけ薬に頼らないよう努力している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかなスケジュールはあるが、その中で意思を確認しながら入浴を楽しんでもらっている。入浴の強制にならないよう声かけしています。	週に2～4回の入浴支援が行われている。入居者の意向を確認しながら又入浴剤を入れ香りを楽しみながら入浴をされている。なお身体状況や入浴拒否傾向にある方には清拭や足浴による支援が配慮されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や希望に応じながら、休憩していただいています。特に外出や入浴の後には、しっかりと休んでいただくよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が管理しています。カンファレンスで、利用者別の既往症や現在服用している薬やその副作用について説明し、情報を共有しています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でできること(食事の支度や買い物等)を手伝っていただいています。またイベント時に写真を撮影していただいたり、裁縫を依頼することもあります。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望にすぐ対応できるわけではありませんが、外出や外食の希望にはできる限り対応しています。	散歩でご近所の犬を見に出掛けたり、食材や日用品の買い物や外食(回転寿司、スターバックス、コーヒー、そば屋等)に出かけられている。なお入居者の希望にそって、お花見(桜・福寿草等)や白鳥見学、上高地、善光寺等にでかけるなど積極的な外出支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しくなっている方には、職員がサポートしながら、自己管理していただいています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙、電話等本人の希望に応じ支援しています。家族にも手紙や電話といったコミュニケーションツールを活用してもらえよう依頼しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を清潔に保ち、安全で使いやすい場所になるようにしています。懐かしい音楽をかけたり、花や写真を飾ったり、アルバムを置いたりして、会話が弾むようにしています。	共用空間の要所要所に長椅子が設けられ、入居者は自由に腰を掛けくつろがれている。台所より漂う家庭的な匂いや、入居者が趣味で撮影された季節の写真があちこちに飾られ、居ながらに季節感や生活感が味わえ居心地のよさが伺えた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のベンチや事務所前のソファ、各ユニットの和室等、居室以外でも楽しめる場所を設置しています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・押入れ以外は、使い慣れた家具を持ち込んでもらっています。 また居室には、家族の写真やパソコンを設置したり、個性的な部屋作りに努めています。	居室には入居者が使い慣れ親しまれてきた品(家具、趣味の写真機、プリンター、パソコン、家族写真等)が持ち込まれ、思いの過しやすい居室作りに配慮が見られた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに大きく名前を書いたり、トイレを分かりやすくするようにしています。 特に居室の表札は、殺風景にならないようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定にある理念を、利用者の方と共に、分かりやすくしたものを考え、玄関やロビーに掲示しています。	グループホームが運営やケアサービスを提供する上で、拠りどころとしている大切なこと、常に立ち戻る根本的な考え方を組み入れた理念を職員や入居者に分かりやすく具体化し、玄関やロビーに掲示されている。なおカンファレンス時に職員間で理念を共有しケアサービスの向上に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会に参加したり、近隣保育園の園児との交流、近所の住民の方から野菜やタオル等の差し入れをいただいたりしています。また「子どもを守る安心の家」にも登録しました。	入居者が散歩や買い物への外出時に近隣の方々との挨拶や地域の保育園児、小・中・高校生との交流が図られている。なお地域行事(敬老会・運動会等)への参加やご近所からの野菜や品物等の差し入れもあり、地域の方々とのふれ合いを持たれている。	今後更にホーム行事に地域の方々を招き入居者とのふれ合いを頂くと共に、ホームへのご理解を得られるような取り組みに期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターを通じ、近くの町会で講演会を行いました。また代表者は、キャラバン・メイトの講習にも参加し、認知症の方への理解を深めるためのお手伝いをしていきたいと考えています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催を遵守できています。利用者家族の声や、他事業所の方々の意見等を取り入れた運営に努めています。職員の名前と写真を玄関に掲示しているのも、家族の意見から実施しました。	地域密着型サービス事業所の活動を明示し、出席者より助言を頂きながら地域に開かれたサービスとしての質の確保を図る取り組みに努められている。(ホーム行事に在宅介護者に参加して頂き、息抜きの場合とされたい旨を伺った)	会議に入居者にも参加して頂き希望や思いの表出場面となるよう配慮が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な場面で、連絡を取り合っています。また、更新申請の際の現地調査をきっかけに意見交換ができ、指導や相談に応じてもらっています。介護保険相談員を通じ、地域との関わりや防災について担当者と話し合っています。	認定更新時等に担当職員へ、入居者の日常の暮らしぶりや身体状況等についての情報交換をされている。なおそのおりに指導や相談にのって頂いている。また介護保険相談員が来訪時、ホームの取り組みについての相談や協力が得られている。	地域包括支援センターと連携を図り、ホームの専門性を活かし、認知症予防教室の実施に向けた取り組みに期待する。

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないのは当然ですが、全職員が正しく理解するようにカンファレンス等で議題に取り上げるようにしています。	身体拘束による入居者に与える身体的、精神的苦痛を全職員が理解しており、日常的に見守りや、寄り添いのケアにより入居者が安全で自由な暮らしが出来るよう支援がされている。訪問時、ホーム玄関に施錠はされていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員から利用者への虐待はありませんが、ご夫婦の利用者さんの間で、暴言等が見られることがあります。大きな問題になる前に制止していますが、利用者家族と連絡を密にしながら、防止に努めています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度への理解を深めるために研修に参加しています。 また、家族から相談を受けたときに、後見人について等の説明を行っています		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、必ず本人とその家族と面談を行い説明します。また解約時には、事前に時間をかけて話し合いの場を設け、理解していただいています。 また、見学時にもしっかりと説明を行うように努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情相談窓口の説明を行っています。運営推進会議を通じての意見等も反映させるようにしています。 また、毎月の様子を報告する書類にも家族の意見を記入する項目を設け、意見を吸い上げるようにしています。	日々の寄り添いケアの中より入居者の意見や要望の把握に努めると共に、ご家族ホーム訪問時(意見箱や苦情相談窓口の利用、運営推進会議出席時等)に意見を頂きホームの運営に反映されている。なお毎月のホーム便りを活用して、ご家族の意見を汲み上げる努力をされている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営母体の役員と代表者、職員で個別面談の機会を設けて、意見や要望を聞き取っています。 また、不定期で職員会議を開催し、意見交換をしています。	職員会議の折の意見交換や、運営母体の役員・代表者と職員面談が行われ、職員との話しあいの下他の部署へ職場替えがあったことを伺った。	

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の休み希望にできる限り応じた勤務シフトを作成しています。 代表者は、毎月5～6日ほど事業所に来て、職員と意見交換をしています。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部への研修は、できる限り職務として参加させています。また研修費用の援助も行っています。 研修報告をカンファレンスや運営推進会議で行い、情報を共有するようにしています。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に参加するよう努めています。また、研修で他施設へ出かける機会も作っています。 運営推進会議に介護事業者に参加していただき、情報交換しています。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>契約・利用の前に必ず本人と家族に、現在生活している場所での面談を行っています。 一週間程度の体験入居をしていただき、本人の気持を確認しています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申し込みの段階で、困っていることや家族の状況を記入してもらっています。 サービス開始前に、家族の現状や要望を聞く面談を行い、不安や希望に対し、私たちがお手伝いできることを詳しく説明しています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>体験入居が決まった方には、サービス開始前でもイベントにお誘いしたりしています。 また、そのときに、職員の名前と写真の一覧をお渡しして、不安の軽減に努めています。</p>		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分よりも介助が必要な他の利用者の方の様子を見守っていただいたり、車椅子を押していただく等、できることを少しずつ伝えていただいています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	代表者と利用者家族とで面談を行いました。入居当時との違いや家族の状況等を改めて確認しました。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡先の分かるご友人には手紙を書いたり、電話をかけるための支援を行っています。入居前によく出かけていたスーパーに買い物に行くなどしています。	入居者の兄弟や退職職員へ便りを書かれたり、電話をかけるための支援が行われている。なお昔馴染みのスーパーへ出かけ買い物を楽しまれている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役になりながら、仲間同士で会話が成立するようサポートしています。お茶やお食事のときも、共通の話題で会話が盛り上がるようにしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は、今までの生活状況等を迅速に伝えるように努めています。また、忙しい家族に代わって、事業者間で連携を密にし、ダメージが少ないように支援しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から思いを把握するよう努めています。発語が難しい方は、表情や仕草といった、普段関わっていないと分からない要素から意図をくみ取れるようにしています。	職員は入居者の生活歴やライフスタイル、日々の関わりの中より一人ひとりの個性や価値観等を把握されており、言葉掛けに留意されると共に入居者の表情や仕草より察知して、思いや希望、意向等の把握に努められている。	

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの情報を基本に据え、必要があればその都度、家族やケアマネージャー等に確認を行っています。また、日常会話の中で新しい発見があった場合も、すぐに家族等に確認し、情報を把握しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りをしています。その日の体調や精神状態等、関わる職員全員が情報を共有できるようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活記録である「今日の私」に各々の職員が個別に記録したものを参考に、ケアプランを作成しています。家族の手元に文書としてお渡しし、ケアプランの承認を得ています。	毎日の生活記録(今日の私)に記載された個別記録や毎月ご家族への便りでのやり取りの中から得られた要望を組み入れ、職員が計画作成を行い、各ユニット毎で検討し現状に即した介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「今日の私」にそれぞれの職員の言葉で記録をつけています。その情報をもとにカンファレンスで意見交換しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時や家族との外出時に車椅子や車椅子対応車両を貸し出ししたりしています。利用者家族と一緒に外出しやすい環境作りに努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある交番や保育園、高校と情報交換したり行き来があります。保育園からは運動会に招待されました。また高校からはボランティアを受け入れたり、先生からの紹介で卒業生が就職しています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、身体的・精神的負担なく医療が受けられるよう支援しています。また、協力医による定期往診も行われています。	入居者やご家族の希望しているかかりつけ医となっている。なお受診に際しては入居者やご家族の要望にそった支援がされている。また月2回協力医による定期的な往診もあり普段の様子等情報伝達が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的・精神的に異変が見られる場合は、すぐに看護職員に連絡し、通院や往診といった適切な医療がすぐに受けられるよう支援しています。また看護師が不在時にも対応に困らないようマニュアルを作成しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けてのカンファレンスに参加して、退院後の生活が速やかに送れるよう努めています。また医療連携相談室やかかりつけ医とも情報交換したり、できるだけお見舞いに訪れるようにしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針を設け、対象になった時は、医師・家族・ホームと話し合いを行っています。その内容は確認書という形で、取り交わしています。	重度化に関する指針が設けられており、入居者がその状態に遭遇した折には、入居者、ご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり安心して最期を迎えられるよう支援がされている。なお看取りにあたりご家族との意思確認書を取り交わされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、マニュアルを作成しています。緊急時に慌ててしまわないよう、定期的に具体例を挙げて、確認を行うようにしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。1回は消防署立会いの下、消火器の使い方等を訓練しています。また、警備会社とも連携しており、災害時に一人で避難できない方の情報を共有しています。	年2回の避難訓練が行われている。マニュアルを作成し、消防署の協力を得て消火器の使い方等の訓練が行われている。なお警備会社とも連携を図り災害時に備えている。	入居者には高齢化に伴い重度化傾向にあり、車椅子対応の方々が増加しており、昼夜を問わず職員のみでの誘導には限界が見られる。日頃より地域住民よりの協力体制が得られるよう話し合い、具体的な支援体制を築かれるよう期待する。

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「今日の私」などは本人の目につかないところに保管しています。バルーンカテーテル留置の方には、職員手作りのバックを使用しています。言葉遣いや性差等も考慮して介助しています。	職員は入居者の身体状況や精神状態を日頃の関わりの中より把握されており、一人ひとりに合った言葉掛けや状況判断をして常に入居者の立場に配慮された支援に努められている。なお個人情報に関する書類は事務室にて管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めてしまうのではなく、本人の思いを聞きだすような声掛けをしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっていますが、本人の体調や意思を尊重した生活をしていただいています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に出かけたりしています。衣服は一緒に買い物に出かけ、本人に選んでいただいています。お誕生日には化粧を施したり、女性にはかわいいヘアピンをつけたりしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい食材を選んだり、形状も個別に対応しています。調理や片付けも体調等を考慮して、できる範囲でお願いしています。	献立を入居者と一緒に考え食材を買いに行かれています。職員の支援を得ながら調理を手伝い職員と共にテーブルを囲み味の評価(美味しかった)をしながら満足感を表現されていた。なお身体状況に即した食事形体に配慮されている。食後には見守りの中片付けが行われていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかですが、食事摂取量と水分摂取量を記載しています。バイタルチェックと併せて、健康管理を行っています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思や能力に応じて、声をかけたり、口腔ケアの介助を行っています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録を参考にしたり、本人の動きを見ながら声掛けをしています。本人の希望があれば、ポータブルトイレも使用し、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。	個別記録書の記載より入居者の排泄習慣を把握し、歩行介助や車椅子介助による排泄の自立支援が行われている。入居者の希望によりポータブル使用による支援も行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心にした食事作りを心がけている。散歩や運動を取り入れ、できるだけ薬に頼らないよう努力している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかなスケジュールはあるが、その中で意思を確認しながら入浴を楽しんでもらっている。入浴の強制にならないよう声かけしています。	週に2～4回の入浴支援が行われている。入居者の意向を確認しながら又入浴剤を入れ香りを楽しみながら入浴をされている。なお身体状況や入浴拒否傾向にある方には清拭や足浴による支援が配慮されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や希望に応じながら、休憩していただいています。特に外出や入浴の後には、しっかりと休んでいただくよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が管理しています。カンファレンスで、利用者別の既往症や現在服用している薬やその副作用について説明し、情報を共有しています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中では、主に食事の後片付けを手伝っていただいています。イベント等で挨拶をお願いしたり、漬物をつける手伝いをさせていただくこともあります。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望にすぐ対応できるわけではありませんが、外出や外食の希望にはできる限り対応しています。家族との外出に支障の無いよう、車椅子対応車両を貸し出すこともあります。	散歩でご近所の犬を見に出掛けたり、食材や日用品の買い物や外食(回転寿司、スターバックス、コーヒー、そば屋等)に出かけられている。なお入居者の希望にそって、お花見(桜・福寿草等)や白鳥見学、上高地、善光寺等にでかけるなど積極的な外出支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時に、必要な金額をお渡しして、使っていただいています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が励みになっている方もいるので、家族の方にお便りいただけるよう声掛けしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭にイルミネーションを飾ったり、食卓を切断したりすることで、使いやすくなるように努めています。	共用空間の要所要所に長椅子が設けられ、入居者は自由に腰を掛けくつろがれている。台所より漂う家庭的な匂いや、入居者が趣味で撮影された季節の写真があちこちに飾られ、居ながらに季節感や生活感が味わえ居心地のよさが伺えた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のベンチや事務所前のソファ、各ユニットの和室等、居室以外でも楽しめる場所を設置しています。		

外部評価結果(グループホームやすら木の家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・押入れ以外は、使い慣れた家具を持ち込んでもらっています。 また居室には、家族の写真やパソコンを設置したり、個性的な部屋作りに努めています。	居室には入居者が使い慣れ親しまれてきた品(家具、趣味の写真機、プリンター、パソコン、家族写真等)が持ち込まれ、思いの過しやすい居室作りに配慮が見られた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに大きく名前を書いたり、トイレを分かりやすくするようにしています。 特に居室の表札は、殺風景にならないようにしています。		